

鳥羽市議会改革推進特別委員会会議録

平成 2 9 年 1 0 月 2 5 日

○出席委員（１１名）

委員長	坂倉紀男
委員	片岡直博
委員	山本哲也
委員	中世古泉
委員	坂倉広子
委員	尾崎幹

議長	浜口一利
----	------

委員	奥村敦
委員	河村孝
委員	木下順一
委員	戸上健
委員	世古安秀

○欠席委員（２名）

副委員長	井村行夫
------	------

委員	橋本真一郎
----	-------

○職務のために出席した事務局職員

事務局長	濱口博也
書記	中山真緒

次長 兼庶務係長 兼議事係長	上村純
----------------------	-----

(午前11時10分 開会)

○坂倉紀男委員長 それでは皆さん、全員協議会に引き続き、大変お疲れのところ、ただいまから議会改革推進特別委員会を再開いたしまして、会議を開きます。

これより議事に入ります。

協議事項1、調査事項についてであります。

皆様のお手元に配付されていますA4判の横の調査事項一覧表をごらんください。

本日は、かねてより番号10の橋本委員から提案いただいております議員定数削減について審査させていただきます。

この件につきまして、地方議員の厚生年金加入の法案が通常国会に提出されて可決された場合、本市の公費負担額は議員1名分の4年間の報酬総額に相当することから、国会の動向を見定めるため保留とさせていただきます。国会での結論は出ておりませんが、改選まで2年を切りましたので、この議論を再開したいと思います。

事務局から資料の補足説明をさせます。

書記。

○中山書記 過去15年間の人口減少と議員定数調べという資料をごらんください。

以前にも一度、過去12年間ということで、資料をお配りさせていただきましたが、それから3年たちまして、新たにその3年間分を正しい数字に置きかえたものになります。また、以前、人口減少率の平均は1.66%だったんですけれども、新しい数字を入れたところ、1.74%になりましたので、その数字を乗じて算出した予測となっております。

以上です。

○坂倉紀男委員長 事務局の説明は終わりました。

この件について、ご質問やご意見はございませんか。

質疑応答、ほかにございませんか。

(「なし」の声あり)

○坂倉紀男委員長 ないようですので、それでは本日出席の皆さん方に一人一人ご意見なり、あるいは賛否なりを聞かせていただきまして、協議の参考にさせていただきたい、そのように考えておりますが、よろしいですか。

それでは、そちらの戸上委員からお願いします。

○戸上 健委員 私は現状維持に変えます。なぜ変えるかという、これまでは少数精鋭主義でいいと、議員と同じだけ職員も減っていると。それやったら議会も減らすべしという意見でした。しかし、この2年、新しい議員が加わって、ミライトークなんかで市民の各団体と交流しました。そのようにしていると、やっぱり14人、これは必要だなというふうに思いました。

全体として人数は減らさずに、じゃどういうふうに世間で言われているように身を切るかということからすれば、議員報酬のほうを一定下げて、そして、人数を減らさないと。ですから、それが市民に応える道ではな

いかというふうに思います。

以上です。

○坂倉紀男委員長　ありがとうございます。

それでは、中世古委員。

○中世古　泉委員　私も以前から定員については現状維持ということで考えておりました。それは今も変わっておりません。なぜなら、現状維持すべくは、各地域が疲弊している状態で、物すごく各地域の人口が減った中で、空き家があったり、その他いろいろな状況があって、今の人員、この議員の定数は維持しつつ、ものを流れていくというのが一番ベストやと考えます。

それと、先ほども戸上委員が言われたように、それなら身を切る、やはり議員歳費、報酬を減らしてでも、収入を減らしてでも、私らはこれを維持すべきやと考えております。ですから、現状維持で、最悪私らの身を切る改革という意味では、議員歳費を減らしてでも現状維持すべきやということで、私は考えておりますので、以上です。

○坂倉紀男委員長　ありがとうございます。

それでは、坂倉委員。

○坂倉広子委員　私はこの約10年間、議会の中でいさせていただきまして、本当にずっと議員を減らしてきたわけです。当初、私になる10年前は19名いたと思うんですけども、16から14という形ですので、いろんな部分を調査してきた中では、現状維持とは最初思っておりましたが、私は議員定数を減らすという方向で応えていきたいと思います。

その理由といたしましては、三重県全体を考えたとき、北勢地域、中勢、南勢と、こちらのほうからは非常に人口が厳しくなっているというのは現状です。そして、大変に議員を減らすということは、その仕事比以前よりかは1人にかかる負担というのは大変広くなってくるのは事実だと思いますけれども、このこともやはり市民の方と直接的に対面をさせていただいたときには、こういうことはどうしても考えていけないといかんことだと私は実感をいたしました。

以上です。

○坂倉紀男委員長　ありがとうございます。

世古委員。

○世古安秀委員　私は以前から申し上げているように、議員の人数はやっぱり減らすべきではないというふうに考えております。

その理由というのは、今回の県議会のほうでも定数減に対してのコメントということで、私も出させていただきましたけれども、やっぱり市民の声、地域的心声を行政に反映させるというのは、非常に今後重要なことになってくると。それによって、人口減少もやっぱり食い止める、そういう施策をいろいろと提案するということと、やっぱりチェックする議会の役割であるチェック機関としての役割を、減らすことによって、ちょっとできなくなるというふうなところがありますので、私は現状維持であるというふうに思っております。

あと、その報酬の削減とかということに関しては、審議会のほうで十分に議論をして、検討していただきたいというふうには思っております。

以上です。

○坂倉紀男委員長 浜口議長。

○浜口一利議長 私、この議長を3年目ということなんですけれども、やはりその中で一番大きなことは、議会の力の向上、常にそのようなことを考えてまいりました。それと、各常任委員会の日ごろの活動が重要であるということを常日ごろ言ってきたわけなんですけれども、常に市民の中に議員がいるということで、そういうことを果たしていこうというような、そのような考え方でいたわけなんです、定数削減については、そのことが低下につながるというような懸念があるということで、やはり現状の14名、これは絶対数必要かと、本当にそう思っております。二つの委員会、やはり7人、7人で、それより少なくなってくると、やはり重要な事業、いろいろ審査もなかなかできにくくなるのではないかなということが懸念されますので、定数については14名ということではいいかと常日ごろ思っております。

歳費についても、いろいろ歳費が高いとか言われますけれども、やはり現状を考えると、それほど高くはないと私は思っております。それに応えるについては、常日ごろの議員のやはり活動ではないかと思っておりますので、議員の活動を常にしっかりやっていけば、そのようなことも、いろいろ市民の皆様方からの批判もなくなるのではないかなと思っております。

以上です。

○坂倉紀男委員長 ありがとうございます。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 僕は、議員は減らす、歳費を上げる。

やっぱり日本が改革を行えるようになった平成7年から考えると、やっぱり分権を進めやな、地方はなくなっていく時代です。そのためにも、鳥羽だけの議論だけじゃなしに、輪を広げる議論をやっぱりしていかな。それに対しては、やっぱり議員活動としては、より多くスキルを上げる中で、大きな枠の中で検討していかないかんと。そうなってくると、やっぱりお金もかかるけれども、そこで身を切る形をとることが、将来の鳥羽の、住民のための役に立つんじゃないかと思っていますので、やっぱり自主性を持って、地域主権というものを確立することが、これは法律でうたわれているわけですから、地方分権一括法になっているんですから、推進から。これはやっぱり法律を守って、つくり上げることが僕らの責務と思っています。

以上です。

○坂倉紀男委員長 ありがとうございます。

木下委員。

○木下順一委員 私も結果は現状維持が妥当かとは思っております。

議会の調査等々、市民からアンケートをとれば、削減というような声が聞こえてはくるんですけれども、それには真摯に耳を傾けていかないとはいかんとは思っておるんですけれども、市民の方々が減らせという、そういう理由はどこにあるのかということは、もう我々ももっと考えて、そこを改革して行って、市民にもっと見える議会、信用できる、信頼される議会というものをみんなが、先ほど議会力というような話もありましたけれども、そういうのをアップしながら、市民の負託に応えていくというふうにしていく必要があるんじゃないかと思っておるので、現状維持でいけばよろしいと思っております。

以上です。

○坂倉紀男委員長　ありがとうございます。

山本委員。

○山本哲也委員　私、前回からさせていただいて、2年半ですか、議員させていただいて、思うことなんです、定数に関しては減でいいと思います。今の現状を見ますと、14人要らないということで。

理由はといいますと、14人おって、14の目が機能していない部分もあったりとかする分もあるのかなというところで、14は要らないのかなと。地域性とか言われる方もみえますけれども、自分がいろいろ動いてみて、あちこちいろんな地域に顔も出させてもらったりしながら、していますと、そんなにめちゃくちゃ広いところではないのかなと。逆に狭さも感じたりする部分もあるので、2人たどれば、誰か議員にはたどり着けることもできたりするし、いろんな、その辺から考えても、地域性を理由にすることが、だんだんできなくなってきておるのかなというところもあります。その辺も理由の一つです。なので、僕は2ぐらい減らしても、現状と変わらん機能は保てるんじゃないかなというふうに考えています。

できれば、私としては、歳費を上げてもいいかなと、それで全体的にマイナスになればいいかなと。専門性をより強くして、ほかに仕事を持たなくても、議員一本でしっかり仕事して、報酬を得られれば、若い方も仕事しながら議員するんじゃないくて、議員に専念できる部分ができるのかなと思うので、そういう方がみえれば、議会のレベルなり、そういうところも上がってきますし、ふだん議員活動として費やす時間もふやすことができるのかなというふうに思っていますので、僕は減らして、できたらそういった報酬の部分は、今現状と比べてマイナスにできるぐらいの分やったら上げていただいたほうが、そういった志を持った方が出やすくなるのかなというふうに思います。

しゃべるとようけ時間かかるので、この辺でとめておきますけれども、とりあえず、私としては減でいくべきやと。

○坂倉紀男委員長　減で、そして少数精鋭的に。

○山本哲也委員　そうですね。それで大丈夫やと思っています。

○坂倉紀男委員長　尾崎委員のように、いわゆる減じて、一人一人のスキルアップを。

○山本哲也委員　そうですね。それが一番かなと思います。することで、そういうふうな議員が残ることができればいいのかなというふうに思いますので。

○坂倉紀男委員長　はい、どうぞ。

○河村　孝委員　私は少なくとも次の改選、31年度の改選までは現状維持でいいと思っています。

今回の県議会の条例の改正についてのアンケートとか、県議会の今回の経緯の討論とかを聞いていても、非常に県民のニーズの多様性という議論が盛んにされていました。鳥羽市も人口は少ないなりに、市民のニーズの多様性というのはふえていないのかなと私は認識しています。

これも私個人的な意見なんですけれども、議会もチェックとか審査だけではなくて、自分たちでいろんなアイデアを出したり、政策提言をしたりするべきだと私は考えていまして、今回、予算決算委員長のアイデアもありまして、執行部にこう申し入れたり、例えば海女条例もやらせていただきました。そういう意味では、いろんな頭でいろんなアイデアを出していただくことが、市民の負託に応えることだと私は思いますので、次の

改選までは現状維持でいいのではないのかなと私は考えます。

以上です。

○坂倉紀男委員長 はい。

片岡委員。

○片岡直博委員 議会選挙があつて、2年ちょっとたつんですけども、当初は定員減、報酬も減、セットでというふうなスタンスで考えておったんですけども、2年半たって感じたこと。やっぱり鳥羽市は離島を抱えた地域性というんですか、今、河村委員もあつたり、いろんな意見の集約、いろんな意見を持った委員が、そこで議論されていいのかなというふうに実は私も感じておりまして、14名の人員については、全国レベルから見ても多くない、そういうふうに感じております。

次の報酬なんですけれども、報酬については、鳥羽市の所得状況から鑑みて、下げるべきというふうに思っております。

以上です。

○坂倉紀男委員長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。

○奥村 敦委員 まだ半年の新人でございますので、なかなか定数がどうのこうのというところまではたどり着いておりません。

ただ、人口減少と比例して議員定数を減らしていいのかどうかという部分とか、議員報酬を上げるといふ部分とかいろいろございますので、私、結論的には現状維持の14名でということで考えております。

以上です。

○坂倉紀男委員長 ありがとうございます。

皆さん方一人一人のご意見をざくっと聞かせていただきました。

本日、2名欠席されておりますので、ここで表決するというのはちょっとできないと思いますので、したがって、ご協議いただく案件は、以上をもって終了したいと思います。

(「委員間討議とかせえへんの」の声あり)

○坂倉紀男委員長 まだ時間もございますので、委員間討議といいますか、皆さん方それぞれのご意見をもう一度出し合っていただく時間が少しあると思いますので、挙手を願います。手を挙げてください。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 僕はやっぱり減らすほうで歳費を上げると。議員というのは、政治家である限り、やっぱり結果を出していかないかん。ここを私も平成11年に議員にさせてもらって、人口減って、経済は下がって、その間、やっぱり議会改革にしろ、行財政改革という大きな節目がどんどん流れてきている中で、結果を出せない。政治家としての結果を出していくためにも、今のままではやっぱりだめだと。

山本委員も言われたように、本当に議員の中にも専門部門を持ってもいいんじゃないかと。その中で、誰がやっぱり一番喜んでもらえるかいうたら、住民ですよ。住民の目線で、住民の声を吸い上げてというけれども、その吸い上げることを結果として出せるのかというてくると、出せない状態が今、ずっと続いています。それを出せるようにするためにも、やっぱり鳥羽市議会是不変わらないかん。

鳥羽だけで物事を考えると、これでいいんじゃないかと終わるけれども、もうちょっと輪を広げた、やっぱり分権を進めて、先ほど誰か県会議員の話もしましたけれども、もう県は要らんという考え方ですから、僕は道州制を早く進めることが、要るものと要らないものの区別が早くできて、住民のための予算は膨れ上がるんじゃないかと、そう考えております。だから、先ほど言うたように、やっぱり議員を減らして、報酬を上げてもらうことにお願いしたいと思います。

以上です。

○坂倉紀男委員長　ありがとうございます。

ほかにございませんか。

山本委員。

○山本哲也委員　すみません、地域性とかということを言われている方にちょっと聞きたいんですけど、例えば今、現時点で出ていない地域もあるわけじゃないですか。それを言い出すと、全部出てもらわなアカンような話にもなるし、今、出ていないところはもうやってカバーしとるのと言ったら、我々が声を拾いに行ったりとかとしているわけですね。その辺がじゃ今、この14人でカバーできておって、減らしたらできなくなるかって、そうじゃないと思うんです。僕はもうそこを言いわけにすることはできないと思う。

確かに目が多いほうが、理想はこの数をキープして、最低限、この数でやればいいと思うんですけども、正直、余りこんなのは言うべきじゃないのかもしれないかもしれませんが、じゃ委員会やります、発言あるかとか、一般質問やります、誰がする、どれだけの数がするんやとかというところをめぐってみると、どうなんやろなという部分も正直あるわけですよ、この2年半、やってみて。

であるのであれば、僕は一回、削ってやってもいいのかなというふうにも思うし、その報酬についても、正直下がるとかっていう話が出てくるんやったら、僕自身も次、考えますしというところから、その辺を、僕は最低限、今の部分はキープしてもらわんと困るかなと思うし、報酬に見合った仕事はしとるつもりです。なので、下げていいという話でもないのかなと、自分はそう思うんです。そこについては、もうちょっと皆さん、しっかり考えてほしいなというところはあるかなと思うんですけども、その辺は皆さん、どうお考えなのかな。地域性とか、そうやっていう部分とか、14人、どうしても要るといふ、その14人の部分、現状を見てもらって、現状、この議会のあれを見てもらって、14人要ると言うところなのか、地域性があるから、これをカバーするには、最低14人は要るよねというところなのか、多分、違うと思うんです、僕からすると。

僕は、現状、この議会を見て、14人は要らんという話なんです。減った人数でもカバーはできるとは思っておるので、その辺、もうちょっと、この地域性とか14人の現状を維持と言うた方に対しては、もうちょっと根拠が欲しいです。14人要るんやという根拠が。僕は要らないと思う。その根拠というのは、発言にしてもそうですし、ふだんどういう活動を、皆さんがどうされておるのか、発信されていない方もおりますので、わかりませんけれども、見とる限りは、要らないんじゃないかなというふうに思いますので、その辺の根拠を示してほしいなというふうに思います。

○坂倉紀男委員長　山本委員が今、おっしゃっていることにつきましては、過去にも幾度か議論の対象になったわけですが、公職選挙法上、小選挙区を設けるというわけにもいきませんし、満遍なく散らばらせるというと、そんなにうまくいくわけではない。

尾崎委員。

○尾崎 幹委員 議員が吸い上げるということは、ほとんどもう今、なくなっておると、昔のように。それはなぜかというたら、やっぱり町内会要望というものがしっかり、最近、執行部としては受けとると。その町内会から出てへんものに関して、私らがよく歩いとる議員はいろんなことを聞いてきます。おくれとる分と、やっぱりその人1人の議員さんが物差しをしっかりと持っておったら、これはだめじゃないかという意見で、執行部のほうへ申し入れたとしても、次に執行部の意見としては、町内会さんを知っているんですかという答え、これはやっぱりうまいこと、口利きという言葉がなくなるようには、執行部はしてもらっていると、それはいいことやと。

と言うてくると、今、山本委員の言われたように、やっぱり小さな声を拾い上げるということを本当にしておったら、鳥羽の人らから文句は出ないよね。それはなぜかという、文句が出るのはなぜかという、答えを出していないからなんです。一方通行なんです、うちの議会は。聞きましたと。聞いた限りは、いい、悪いの判断をやっぱり出してあげるのが必要なところであって、そのためにはスキルを上げることが、そのためには行動範囲を広げることが必要やと私は思っていますので、まず山本委員に賛同したいと思います。

○坂倉紀男委員長 ミライトークを初め各地域において、これからもまた活動をしていただくとは思いますが、結局聞き取ってきたことについて、それをそのまま下へおろしていくと、下のほうでは、今度は自治会連合会等、そういったところからもどんどん入ってくると。50も100も要望が入ってくると、要するに重なってくる部分が非常に多いという話は私も聞いておるんですけども、そこら辺と要するに同じような種類というレベル、レベルという言葉が過ぎると思うんですが、下とはまた違う分野で、議会は議会なりのやり方を考えたほうがいいと思う。

○尾崎 幹委員 そのとおりで、役所としては、鳥羽市でできることは全部一生懸命やっておると思います。私らが次にせないかんの、やっぱり予算の問題が一つ出ても、県や国から取ってきてもらわな、次に動かんという事例が山ほどあるわけです。歴代、僕の知っておる鳥羽選出の県会議員は、余りよその県会議員と比べると、ものになっていないと。そんなんやったら国へ行きましょうと、そういう動きを一人一人がやり始めたら、それはかなり進むよ。国へ直接行って、金くれと言いにいける議員がみんなやったら、おもしろいですやんか。そこまでは進まな、やっぱり……。

○坂倉紀男委員長 はい、わかりました。

○尾崎 幹委員 それぐらいの議会になったらおもしろいですやんか。みんなが予算的にできるようになれば。

○坂倉紀男委員長 今の尾崎委員の意見はよくわかります。皆さんも理解して……。

戸上委員。

○戸上 健委員 山本委員の提起があって、現状維持でいいという人の根拠、これを聞きたいということでした。それから、尾崎委員の発言もありました。それに関連して、僕の意見を言います。

僕も4年前の議論の中でも、定数削減すべしと、私は10人でええと、少数精鋭の10人で十分だという意見を言いました。そのときに、もう今、いないけれども、野村議員から、「健さん、その少数精鋭で実力のある、本当に発言する、毎回質問もする、議員間討論でも積極的に発言する、いろんなアイデアも出すと、そういう人が10人そろったらええよ」と。「しかし、選挙で選ばれてくるのは、地縁、血縁で、全く発言しなく

でも選ばれてくる人がおるんや」と。ですから、今の鳥羽市の市会議員の選挙、有権者の選択というのを最大限尊重しなきゃいかんけれども、しかし、そういう優秀な議員から順番に、自由に選ぶのかということにはならんのです、現状では。

だから、山本委員の言うように、12人にしたら、その12人にきちんと有権者が判断をされて、そして、優秀な12人に淘汰されるかと、ちょっと余り言いづらけれども、そういう議員が選ばれて、落選するかというと、そうはならんのです。もう野村議員も言っておったけれども、「健さん、あんたはいつも上位で当選するからそんなこと言うんやけれども、実際は頑張つとる議員は、頑張っておつても、票数がなかなか出ないという議員にとっては、そこの苦しみというのはようわかったらなあかん」という意見も出ました。

それからもう一つ、尾崎委員の意見だけれども、定数と、それから議会としての結果を出すということは、僕は関係がないというふうに思うんです。12になったから、結果を出せる議会になるかということ、そうではないというふうに思うんです。結果を出すということからすれば、僕はこの1期目の4年間と、それから、この2期目の4年間を比べてみると、この2期目の4年間のほうが、結果としては出してきたんやないかというふうに思います。いろんな議会改革にしても先進していますし、ミライトークについても先進をしてきたというふうに思います。

ですから、今のそれは一定の14人の人数がおったから、いろいろそれぞれ個性があつて、濃淡はそれぞれあつたとしても、それぞれがやっぱりそれぞれの力を、応分の力を僕は発揮してきたと。だから現状があると。ですから、現時点では、次の改選では、14人でいって、そして、やっぱりあかと、もっと減らせということになれば、減らしたらいいというふうに思うんです。

市民から5割が定数削減というふうに市民世論があるということは、議会の活躍、議会がこんなに頑張っておることが知られていないから、議会議員の活動が目に見えんやないかと、何しとんのやということがあつたから、そんな議員ならもっと減らしてええやないかということになっておつたんです。しかし、この4年間は、僕は市民に対して、特に僕はミライトークの活躍というか、この活動が大きいと思いますけれども、評価を今、アンケートとれば、上がっているんじゃないかと、僕は思うんです。

以上です。

○坂倉紀男委員長 議長。

○浜口一利議長 いろいろ意見はそれぞれあるとは思いますが、やはり市民の意見、アンケート、いろいろアンケートをとると、歳費が高いとか定数が多いというのは、もう常につきまとしておるわけ、何年となつても、どのくらい我々が活動した中で、その中で、この資料だけでも、平成15年に19人に減らして、もう改選ごとにどんどん減らしてきておるわけやけれども、やはり議員が多いというのは、今でも、どんどん減らしても、それはもう払拭できないという事実があるということと、それと、歳費についても、やはりそのような目で見られているということがあるわけなんで、やはりどんどん定数を減らしていっても、議会に対する市民のいろいろな目というのは払拭できない、定数についてもそうなんですけれども。

ですから、やはり議会の議員の活動をこれからきっちりやっていくべきということで、これまで皆それぞれ努力してきたわけなんですけれども、そのあたりでやはりこれ以上議員定数を減らしていくと、ちょっと無理があるのではないかなというところ。それと、委員会でこんなことがありました。7人で委員会、重要な案件

が上がってきた中で、その賛否をとって、議会のほうに上程というか、結果報告するわけなんですけれども、やはり委員長がいて、副委員長がいて、誰か1人欠席という中で、その4人か5人の中で、重要な案件の議論ができるかなという、委員会の現状なんですけれども、数があればいいということではないと思うんですけれども、やはりそれぞれ得手、不得手があると思うので、全て万能の議員ばかりそろえるというのは、やはり、ただいま戸上委員が言われたように、今の選挙の中で、議員が選ばれている中では、無理もあろうかと思います。

ですから、私は14名、これはやはり最低の線かないつも思っているわけなので、市民の定数が多いとか歳費が多いとかということに應えるには、やはり議員一人一人が現状の中できっちり活動していくことで、定数が多いというのは払拭していかなければいけないかなと思っております。

以上です。

○坂倉紀男委員長 山本委員。

○山本哲也委員 戸上委員と議長も言っていましたけれども、残るかどうかわかんって、定数を減らしたから。いつまでその選挙を続けるんですかって話です、僕からしたら。理想かもしれないですけども、正しいやることを、やりたいとか、こういうことを目指しておるやということを訴えて、それに乗かって、賛同してくれる人が投票してくれるようなやつを目指すべきですよ、政策本位といいますか。それを目指すべきやと思うんです。僕はそう思うんです。だからやっておることとかもいっぱい発信しますし、このままやったら、ずっとその選挙ですよ。ずっとそれが残るわけやないですかという話です。だから、僕は一回、ちょっと減らしてでも、仮にそういう方が残ったとしても、働かなかったら、その審判を受けるようにしていかなあかんわけです。だから、やっぱりこのタイミングで一回減らすべきやと思います、それは。

ずっとアンケートでも出てる報酬が高いとか、議員定数が多いとかというのは、僕もずっとそう思っていました。思っていましたし、実際やってみて、大変な仕事やなというものもあるんです。それをどれだけの人が理解しとるのかということやと思うんです。だから、じゃそうやって言われ続けて、今回、当選、僕、して、これだけしんどい仕事も多いですし、大変なことも多いので、それをわかってもらうために、いろんな情報を外に出すようにしますし、その辺を理解してもらうようにというところも頭に入れながらやっています。そういう活動をじゃどれだけの人がしとるのかといったら、全員が全員、そうじゃないんですよ。そこが変わらんことには、そこは絶対変わらないと思うんです。

議会の役割とか、議員一人一人の役割とかという部分を、じゃどれだけの人が理解してもらうために動いとるのやといったら、中には限られていますよね。その辺から変えていかないと、その辺の声というのは減らないと思うので、そういう努力は、絶対要ってくるんやろなど。12になっても、多分減らせと出ますよ、多分、このままやったら、声は、アンケートからは。絶対見えていないですから。その辺を変えていかないと、変わらないです。

それで、多分、その声はずっとつきまとうものやと思うんです。だから、その辺から変えていってもらわんとあかんかなというふうには思います。なので、選挙の感覚自体を変えていくぐらいの勢いというのを議員が主導でというふうにできたら理想なのかなというふうには思うので。

○坂倉紀男委員長 広子委員。

○坂倉広子委員 議員定数と議員報酬は、全く別の話だと思います。それで、議員報酬は、報酬審議会がありま

すので、これは私たちが決めることではありません。そして、この定数というのをどういうふうにしていくかというのは、以前もあったように、急遽選挙をする前に、それまでは現状維持と言って、皆さんで賛成多数で減らさないということになっていたのにもかかわらず、急遽以前、選挙の前に定数を削減するということになった、これだけはもう絶対に回避をせないかんということで、現在、これを橋本委員が言われたんだと思うんです。

ですから、あと2年あることで、結果を出さないかんということになりますので、皆さんの意見というのは、ここで真剣な議論が必要になってくるわけですので、やはり皆さんの意見はここで言うべきだと私は思います。

○坂倉紀男委員長 ただいま、先ほど来、戸上委員のほうからいろんな意見が出されました。その他、山本委員のほうからも非常に難しい部分にさわるような意見が出てきました。結論は、やはり14名の定数が正しいか正しくないか、減らすべきなのかというような、いろいろな意見。なぜ14か、なぜ13か、12かというふうなところへ行き着いてきたと思います。

それぞれに意見をお持ちですし、また、皆さん発言された方々のお話も聞いて、ご意見も聞いていただいたと思いますので、本日は欠席者もおりますので、表決はできませんから、このままの意見をそれぞれ持ち帰っていただいて、しばらくの間、お考えをいただくということで、本日はこの会議を流していきたいというふうに考えます。よろしいですか。

山本委員。

○山本哲也委員 スケジュール的には、どういうスケジュールになるんですか、これは。どれぐらいのあれで最終決定をするかとかという部分は。

○坂倉紀男委員長 事務局長。

○濱口事務局長 私のほうから、スケジュールについて説明させていただきますと、先ほどもあと残り2年という話で、もう2年ないんです。ですので、我々としては、1年を切ってしまうと、なかなかこれはいかんのかなということで、今回、議会改革ということで、審議を皆さんにさせていただいたわけなんです、できることであれば、もう3月までに結論を出していただきたいと思いますので、早いうちがいいかなと思いますので、12月、年内にもう出すのか、せめてその辺では、もう皆さんの全て意見をまた言っていただいて、ちょっと橋本委員が体調不良で出られませんので、ちょっと意見がもらえないところもあるんですが、あと監査委員で井村委員がみえたときに、もう1名ふえますので、そこら辺の意見もまた踏まえた上で、今度はもう次のときには、ある程度の方向性を出してもらうということで、皆さんにはもう一度持ち帰って、考えていただいて、今度の議会改革の委員会の中ではもう方向性を出すということで、していただければというふうに思いますが、どうですか。

○坂倉紀男委員長 ご協議、大変ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、議会改革推進委員会を終了し、散会したいと思います。ありがとうございました。

(午前11時55分 散会)

委員長はこの会議録をつくりここに署名する。

平成29年10月25日

議会改革推進特別委員長

坂 倉 紀 男